自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念を正面玄関に掲示している。法人の理念に基づきながら、ケアの方針を接遇委員会で協議し、グループホームは家庭の延長として捉え、家庭的なサービスを提供できるよう周知している。	法人の基本方針をもとに接遇委員会でケアに関する具体的な行動指針について話し合ったことを管理者、職員は共有し、日々の暮らしを大切にケアの実践に活かしている。しかしながら、安定しつつある暮らしの中でも利用者のよりよい暮らしの実現に向けた理念について職員全体で再度話し合っていく必要性も感じている。	事業も軌道に乗りつつあり、問題解決する力も付いてきているようなので法人の理念そのままではなく、地域や利用者のニーズ等について職員全員で話し合う機会を設け、現状に合った事業所独自の理念を作り上げ、意識づけしていくために日々の中でも話し合い、実践に繋げていかれることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し回覧板のやり取りや、清掃活動に参加している。班の清掃活動では施設の花壇の整備をしていただいた。また、七夕やコミセンまつり等町内会の行事にも参加させて頂いている。 地域の方のボランティアも定期的に来ていただいております、積極的に交流を図る努力をしています。	開所から日も浅い関係もあり、地域の共同作業への参加は少ないが、町内会行事への参加や中学生の職場体験の受け入れ、ボランティアの訪問も勧められるようになって来ている。また、班の協力のもと、前庭の花壇の整備をしていただくなど良好な関係性も築かれて来ている。	花壇の整備に地域から協力をいただいたり、中学生の職場体験の受け入れも行っている。今後も更に利用者が地域との繋がりを持ちながら当たり前の暮らしが継続できるよう、近隣の小中学校や保育園との交流、地域の共同作業への参加など出向いていく機会づくりが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会の実施する在宅介護者の集いに認知症介護に関する講師の協力をに行った。また、中学生の職場体験の受け入れを通じて認知症の方との関わりを体験して頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設する小規模多機能事業所と合同で開催している。利用状況や行事の様子をお伝えしたり、サービスに関する協力や助言、指導を頂いている。	2か月ごとの会議も定着し特定メンバーに加え、家族、利用者代表は毎回違う方より参加してもらい、会議についての理解と協力をいただきながら、前回の会議で取り上げられた検討事項や勘案事項について経過を話し合い、1つ1つ積み上げていくようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員に市役所の介護高齢課の職員1名・地域包括支援センターの職員1名に参加をお願いし事業所の報告をするとともに意見を頂いている。	市担当者、包括支援センターとの積極的な連携が構築されており、運営推進会議によらず不明なことがあれば折に触れ相談、助言、連絡等がなされている。また、運営推進会議の機会を利用して利用者の生活の様子を観てもらったりもしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、施錠等は行っていない。身体拘束廃止マニュアルを作成し配布するとともに、法人内の研修会に参加している。	安全を優先するあまり、日中も玄関に施錠のない様子を不安に思われるご家族もおられるが、職員の見守りの方法を工夫し、一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチすることで、鍵をかけずに自由な暮らしを支えるようにしている。	法人内研修は行われているが全職員が参加できる機会の確保は難しい状況である。「高齢者の権利擁護や身体拘束ゼロへの手引き」での勉強会や外部研修でも順次職員全員が学べる機会を設け、「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」の理解を深めていかれることを期待したい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを作成し活用している。開設前に虐待に関する研修を実施し虐待防止に努めている。	内部研修の機会を設け高齢者虐待防止法に関する理解の浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。管理者は職員のストレスが蓄積されないように様子を観ながら個別面談を実施し、相談ごとに応じることの出来る関係性が構築されている。	内部研修は実施しているものの全職員が参加できる機会の確保は難しい状況にある。今後は定期的に研修を重ね、「高齢者虐待防止法」に関する理解の浸透や不適切なケアについても話し合い、更に認識を深めていかれることを期待したい。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用されている方が2名おり、包括支援センターと連携して支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前には出来るだけ見学をしていただき、不安や疑問に思われたことにお応えしている。利用開始前に契約書・重要事項説明書についてご家族に説明を行い承認を得てから利用を開始している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に意見箱を設置している。日常生活や会話の中から利用者の思いや要望を確認し実現に向けて取り組んでいる。ご家族様へは面会時や電話連絡の際に要望等を気軽に言って頂けるよう話をしたり、声に出して頂ける関係作りに努めている。	家族には電話や面会時に常に問いかけ、何でも言ってもらえる雰囲気づくりに努め、利用者からは日々の会話の中から思いや要望を汲み取り、いただいた意見はミーティングの中で話し合いながら運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノートの活用や毎日のミーティング、日々の話し合い等で意見の交換や提案を聞く機会を設けている。また、全職員を対象に個別の面談も実施し、直接意見を聞き業務に反映できるよう努めている。	ミーティングや職員会議のみによらず、管理者は日ごろから職員とのコミュニケーションを心がけ、利用者のために何が出来るかを話し合っている。また、必要時は個別の面談も行い、問いかけたり、聞き出したりして運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回人事考課を行い、職員が向上心をもって勤務できるよう努めている。資格修得に対する支援も行い、スキルアップ、キャリアアップの体制を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の施設と研修の協力体制を取っている。外部研修にも積極的に参加し、研修における復命を回覧することで研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や市内の事業所連絡会などに参加しネットワークづくりや、情報交換、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に自宅やサービス事業所へ訪問し生活状況の確認や、本人・家族との話し合いにより生活歴や本人の思いを理解し受け止め、安心して生活して頂ける関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に家族との面談で不安や要望等確認している。また本人に対する生活の意向を確認し、サービス計画書に反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前の面談にて、本人・家族の困っている事を聞き取り必要な支援を見極め、必要に応じて他のサービスについての説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事作り、生活の中で出てくる家事全般を入居者様と職員で一緒に行うようにしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊、受診、居室の環境作り等、ご家族からのサポートや協力が施設での生活には欠かせない要素として捉えており、ご家族しかできない関わり方等を願いますとともに、協働する関係づくりを大切にしている。	共に本人を支える姿勢で一緒に考えていける自然な関係を目指し、家族の協力を得ながら外出や外泊、室内の環境づくり、通院時の付き添い等、家族と職員の思いが徐々に重なり本人を支えていくための協力関係が築けるようになってきている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室の利用を継続して頂いている方がいる。知人や近所の方が面会に来て下さる事もあり、これまでの関係が途切れないように努めている。	馴染みの友人、知人の面会での交流、また、在宅時から利用していた美容室への継続的な交流を支援すると共に、回覧板での情報も活用しながら地域行事への参加や行楽等、地域とのつながりを継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を配慮し、食事の席を工夫したり、個別の活動や役割を提供している。利用者同士で声を掛け合って家事をされたり、介助が必要な利用者に対し、他の利用者が手助けする場面もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等でサービスの利用が終了しても、必要に応じて相談や支援に応じ、情報提供や他サービスの利用につながるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者与生活相談員を中心に、生活の中で利用者の思いや考え等把握し、要望に対応できるよう心がけている。思いは職員で共有するよう連絡ノートに記載し、必要に応じてカンファレンスやケアプランに反映させている。	家族からの情報を得ると共に日々の関わりの中でも声をかけ、意向の把握に努め、言葉や表情などからの気づきについても連絡ノートやミーティング等で全職員が情報を共有し、利用者本位のその人らしい生活を送れるように支援している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に本人・家族及びケアマネージャーから話を聞き、情報収集している。また、入居後の生活の中での会話、暮らしぶりからも情報収集するように心がけている。	入所前に前事業所から情報を得ると共に、本人や家族から生活歴や普段の暮らしぶりについて聞き取りを行っている。入所後も本人との対話の中から馴染んできた暮らしについて、自然なかたちで把握し、個々に合わせた対応を心がけている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や精神状況をみながら、ご本人が出来る事は自分で行ってもらうよう支援し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の思いや意向を聞き、カンファレンスを行い、ニーズや現状に応じた介護計画を作るよう努めている。	アセスメントを含め、日ごろの関わりの中でも本人、家族の思いや意見を聞き、介護計画に反映させている。必要時、本人の状態を観ながら職員間で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。	今後は利用者が地域でその人らしく暮らし続けるために、カンファレンスやモニタリングに本人、家族よりも参加してもらい、本人、家族の実感するサービスの在り方について、気づき、意見、要望の反映された介護計画が作成されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はタブレット端末を利用し、さらに申し送りノートで職員間の情報共有を行い、支援内容の工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向やニーズ・ご家族の希望、その日の体調や天候など様々な要素を考慮し、その方の生活リズムを大切に考え、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練に地域の方に参加していただく予定である。定期的にボランティア(ハーモニカ演奏会等)に来ていただいたり、地域の行事に参加させていただき、交流を図るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は原則として家族にお願いしているが、必要に応じ職員が支援することもある。適宜、ご本人の様子を記載した文書を家族を通して主治医に渡す事で主治医との連携を図っている。	基本的には家族同行の受診となっているが、家族の都合がつかない利用者には職員が同行し、日ごろの状況について医師との情報確認が行われている。受診結果についても双方向的に報告を行う等連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する小規模多機能と兼務の看護師を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じ対応している。また、健康管理や医療面での相談、助言をしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には病院に出向いたり電話にて、状態確認や病院関係者との情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期の当事業所の方針をご家族に説明をしている。	入所時に重度化した場合や終末期の対応について、本人、家族に事業所でできる範囲の説明を行い了解を得ている。緊急時や状態変化時は協力病院やかかりつけ医の協力のもと対応している。今後は本人、家族の意向を踏まえ、協力病院との連携を図りながらチームで支援していくための体制整備と学習の必要性について感じている。	利用者、家族の意向を尊重しながら終末期支援について、今後の対応方針、医療関係者との体制整備等について職員全員で勉強会の機会を設け、終末期ケアについての条件の準備を確立し、利用者、家族の安心に繋がるよう期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の対応についてのマニュアルを作成している。また、法人内の他施設で実施される消防署による救急法の研修に職員を参加させる予定。	緊急連絡網やかかりつけ医の連絡先についてのマニュアルは整備されているが、応急手当や、初期対応についての研修会や、定期的な訓練等で職員全員の体得には至っていない。今後消防署立ち合いにもとに行う法人内の救急法研修会への参加を計画している。	新しい事業所の体験不足を共通の認識とし、緊急時に誰でもがすぐ対応できるよう、応急手当や初期対応の方法について研修を重ね、理解を深めていかれることを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練を実施している。消防署立ち合いの訓練も実施し指導も頂いている。今後、地元消防団、地域住民と共に避難訓練を行う予定。	消防署立ち合いの下、昼夜を想定した避難訓練を利用者と共に定期的に行い、避難方法の周知徹底を図っている。今後は地元の消防団や地域住民からの協力も得ての訓練も計画中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を尊重し、尊厳を傷つけないよう言葉使いにも配慮している。また、接遇委員会を中心に、言葉かけの見直しを行った。	その人らしい尊厳ある姿を大切に、援助が必要な時も誇りやプライバシーを損なうことのないよう目立たず、さりげない言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中の一つ一つの動作や作業の中で、常にご本人に声かけをし、意向を聞きながら活動をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課に沿いながら、一人ひとりのペースや生活リズム、要望の把握に努め、その人らしく過ごしていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご本人と選び、気候にあった本人の好きな服装をして頂いている。理髪についてもご本人の要望を聞いて利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物、下ごしらえ、味み、後片付けなどを職員と共に行って頂き、昼食は職員も一緒に食べ感想を言い合いながら楽しく食事をしよう努めている。	敷地内で利用者が職員とともに育て収穫した野菜等も使用し、利用者が馴染んできたメニューを中心に、落ち着いた環境の中で職員と共に摂る食事時間を大切にしている。また、利用者は機能に合わせ料理の下ごしらえやテーブル準備、後片付け等、自分にできる力を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立を参考にし、食事を提供している。食事量についてはケース記録に記載することで把握し、必要に応じて補食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、必要に応じ、介助を行っている。就寝前には義歯洗浄を行い、清潔保持に努めている。法人内の歯科衛生士による口腔ケア研修を実施予定。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの表情や体調に応じて声かけ、トイレ誘導等を行っている。	一人ひとりのしぐさ、表情や様子から排泄サインを察知し、その人に応じたさりげない声かけでトイレ誘導することで、羞恥心や不安がなく、気持ちよく排泄できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の状況を把握し、看護師、主治医との連携も図りながら、個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本となる入浴予定表により、その方の体調や希望によって、日時を変更しながら入浴して頂いている。入浴が困難な際は清拭や、シャワー浴、足浴等で対応している。	入浴日は設定してあるが利用者に応じた入浴支援を心がけている。入浴拒否される利用者へはタイミングを観ながら声がけにも工夫し、体調を確認しながら入浴して頂いている。また、ゆず湯や菖蒲湯等の季節湯も利用者の心を和ませている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに応じて休息して頂いている。又、安心して気持ちよく休まれるよう環境整備に努め、季節ごとの布団の入れ替え等支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容や用法、副作用について説明書にて確認している。症状の悪化や状態変化時には看護師、主治医に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	米とぎ、食堂掃除、食器拭き、洗濯たたみ等、日常生活の中で、その方が得意とする事を役割としてやっていただき、やりがいを感じ活躍できるよう支援している。また、趣味の編み物や読書を続けられるようご家族の協力をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩やドライブなど季節や天候に応じて随時行っている。紅葉見学の行事も計画している。また、地元の七夕祭りやコミセンまつりにも参加している。	家族との外出はいつでも可能であり、天候をみながら日常的に庭園へ出て野菜や花の成長を楽しんだり、季節感の感じられる場所へドライブする等、気分転換を図っている。また、季節行事を計画し、紅葉狩りや地域行事にも参加し、外出が楽しめるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設としては金銭管理をしておらず、原則ご家族の管理となっている。個別にお金を持っている方がおり、買い物の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話や手紙などやり取りが出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂では季節を感じられるように装飾を変え、中庭には野菜や花を置いて四季を感じて頂いている。利用者の希望を聞きながら冷暖房を調節している。天候または、状態に応じて、中庭で茶話会や、談笑を楽しんで頂けるようにしている。	共有スペースはゆったりとして、柔らかな陽射しが差し込み開放感を感じられる。利用者は一日の殆どをフロアで過ごし家庭的な雰囲気の中で語り合い、自分なりの活動ができています。利用者の作品等も掲示され心地よく過ごせるよう配慮されている。また、気候の良い時期には中庭のペランダで茶話会や談笑を楽しむなど居心地の良さが感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の食堂の他に交流ホールや中庭のベンチ、各個室等、本人が好きな場所で過ごしていただけるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族に使い慣れた家具や思い入れのあるものを持ち込んでいただくようお願いをしている。	家具は事業所の備え付けであるが、利用者の希望に合わせ、安全で心地よく過ごせるよう配置されている。本人や家族と相談し、本人の使い慣れたものや親しみのある品物を持ち込んでもらい、安心して過ごせる空間づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの安全な環境を整え、事業所の内部では自宅で困難であった動作も自立して行えるよう支援している。		